

令和４年６月新見市議会定例会
日程第４（市長の行政報告について）

市 長 行 政 報 告

本日、６月市議会定例会を招集いたしましたところ、皆様方にはご多用のところをご出席賜りまして、誠にありがとうございます。

それでは、前回の市議会定例会以降についての報告をさせていただきます。

はじめに、新型コロナウイルス感染症についてであります。

市内感染者の発生状況につきましては、本年４月から５月末までで１３５人の感染者があり、そのうちクラスターが小学校と保育施設及び高齢者施設で各１件発生しております。引き続き、不織布マスクの適切な着用や手洗い、消毒など感染防止対策の周知徹底に努めてまいります。

ワクチン接種につきましては、５月３０日現在、人口あたりの接種率は、１回目から３回目を通じて、県下１５市ではトップとなっております。

４回目となる追加接種につきましても、６０歳以上の人や、１８歳以上６０歳未満で基礎疾患を有する人などのうち、前回接種から５か月以上が経過した人に、５月２４日から順次接種券を発送し、接種を開始しております。

新型コロナウイルス感染症に関する本市独自の支援につきましては、これまで、事業者に対する支援金の給付や、プレミアム付きクーポン券事業、市内周遊型観光ツアー助成事業など、様々な施策を講じてまいりました。

地域経済の活性化を目的とした「ＩＣＯＣＡ」を活用した事業につきましては、１０月頃の開始を目途に準備を進めております。引き続き、感染症拡大防止に努めながら新型コロナウイルス感染症で落ち込んだ市内経済とコロナ禍における物価高騰等への経済対策に取り組んでまいります。

次に、市役所組織の機構改革についてであります。

効率的な行政運営を推進し、刻々と移り変わる社会情勢や市民ニーズに的確かつ柔軟に対応するため、４月１日付で大規模な組織・機構改革を実施いたしました。

主なものを挙げますと、総務部では、人口減少対策の司令塔機能を強化するため、総合政策課内にあった「定住促進室」を「移住・定住推進課」に改めました。人口

減少対策の大きな柱である移住定住をさらに推進するとともに、ふるさと納税にも一層力を入れてまいります。

福祉部では、「生活環境課」を「環境課」と「交通対策課」に改編いたしました。脱炭素を中心とした環境施策の充実を図るとともに、地域の実情に応じた公共交通体系を整備するなど地域交通の諸課題に迅速に対応してまいります。

産業部では、「農林課」を「農業畜産振興課」と「林業振興課」に改編いたしました。本市の基幹産業である農畜産業及び林業施策の充実・強化を図るため、業務を細分化しスピード感を持って対応してまいります。

それでは、第3次新見市総合計画における施策分野ごとの主な事項について、報告をさせていただきます。

まず、「産業・経済」についてであります。

農業につきましては、昨年は、長雨等の天候不順により農作物の生育に影響がありましたが、「ぶどう」においては取引額が高値であったため、過去最高である12億7千万円を超える販売金額となりました。今後も引き続き、園芸品目全般において産地拡大や生産振興に取り組んでまいります。

また、昨年度創設いたしました、主食用米の生産者に対する「米づくり応援特別支援金」につきましては、3月末までに全申請者へ、約5,900万円の交付を完了しております。

林業につきましては、日本たばこ産業株式会社との協定により、鯉が窪湿原周辺を「JTの森 鯉が窪にいみ」として、森林保全活動を実施しております。昨年度、5年間の森林保全協定期間の満了を迎えましたが、活動期間をさらに3年間延長する協定を本年3月23日に締結いたしました。引き続き、鯉が窪湿原周辺の森林整備や環境維持等に取り組んでまいります。

また、本年5月に、地域おこし協力隊「林業男子」1名が着任いたしました。新見産材を活用した家具や楽器の製作に取り組まれ、木工教室や製作した楽器による演奏会の開催などを通じた、地域住民との交流を検討されております。今後の活動に大いに期待しているところであります。

観光につきましては、観光事業協議会のそれぞれの地域部会の中で、関係者の皆さまとともに、誘客につながる取組を検討し、交流人口の拡大を目指しているところであります。本年4月には、草間・豊永・井倉地域の南東部会の皆さまが企画された「羅生門さくらまつり」が、羅生門及びさくら公園を会場に、初めて開催され、市内外から1,800人もの来場者がありました。今後も、地域の皆さまとともに、交流

人口の拡大に向けた取組を行ってまいります。

次に、「教育・文化・スポーツ」についてであります。

3月26日から29日までの4日間、新見ピオーネ球場などを会場に、都道府県対抗全日本中学生男子ソフトボール大会が開催され、全国から19チームが参加し、熱戦が繰り広げられました。本市での連続開催の最終年となった今大会で、市内の選手を中心とする岡山県選抜チームが見事、通算7回目の優勝を飾りました。チーム全員が一丸となって激戦を勝ち抜いていく姿は、誇らしく、また、「ソフトボールのまち 新見」を掲げる本市にとって大変明るいニュースとなりました。

また、老朽化に伴い改築工事を進めておりました、大佐グラウンド敷地内にある「平松館」が3月に完成いたしました。避難所と市消防団大佐分団の活動拠点の機能を併せ持つ複合施設で、スポーツ交流の場として、また、防災及び地域活動の拠点として、より多くの方に活用していただきたいと考えております。

次に、「安全・生活基盤」についてであります。

防災につきましては、出水期を前に、主な避難所におきまして、避難所開設の受付及び運営の訓練を実施いたしました。引き続き新型コロナウイルス感染症のまん延防止に留意した避難所運営に努めてまいります。

また、昨年度から見直しを進めておりました防災マップにつきましては、6月市報とともに各世帯へ配付いたしました。この防災マップは、市内を13地域に分割し、地域ごとに1枚の地図として作成したもので、より見やすいマップとなっております。

今後も市民の皆さまに防災情報を的確に提供できるよう努めてまいります。

次に、「都市基盤・交通」についてであります。

新見駅周辺のまちづくりにつきましては、4月28日に新見駅周辺まちづくり検討委員会から基本構想（案）の報告をいただきました。この（案）を基に「新見駅周辺まちづくり基本構想」をできるだけ早い時期に策定したいと考えております。

公共交通につきましては、昨年度、地域の公共交通に関するニーズや課題を把握するため、住民意見交換会や市民アンケートなどを実施し、年度末に調査結果をとりまとめました。本年度は、その調査結果の分析を行い、市民の利便性の向上を図るとともに、持続可能な交通体系の確立を目指して、「新見市地域公共交通計画」を策定することとしております。

また、5月11日に第4回目となる「芸備線 庄原市・新見市エリアの利用促進等に関する検討会議」が本市において開催され、昨年度の取組を評価するとともに、

本年度に実施する取組を発表いたしました。新見市鉄道利用促進協議会や本市の事業を継続して実施することにより、芸備線をはじめ、伯備線や姫新線の利用促進に向けた取組をさらに進めてまいります。

次に、「交流・コミュニティ」についてであります。

本市の表玄関である新見駅の西側に、「NIU新見駅西サテライト」が4月17日にオープンいたしました。

地域に開かれた施設として様々な世代に広く利用され、交流やにぎわいを生み出していけるよう努めてまいります。

地域運営組織につきましては、本年度、新たに刑部地域、豊永地域で設立され、合計13組織が活動されております。また、上熊谷地域では、活動拠点施設として、住民の誰もが気軽に立ち寄り交流を図ることができる地域づくりセンターが、市内で初めて開所いたしました。今後も地域運営組織の設立やその活動のための支援を行ってまいります。

以上、市政運営の状況につきまして主なものをご報告いたしましたが、引き続き市政の推進にご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。